



湖北



鳥の分類や生息状況を記す「日本鳥類目録」(日本鳥学会)が12年ぶりに改訂されたことを受け、湖北野鳥センター(長浜市湖北町今西)は特別展「鳥の新分類展」を開いた。

12年前の改訂で鳥の分類が姿や形によるものから分子遺伝学を重視したものに変わったことを紹介。更に遺伝子の解析が進み、今回の改訂で分類がより細分化され、亜種から種に格上げされたものも多

いと説明した。湖北で見られる鳥では、これまでツグミ、サンショウクイ、アオジの亜種とされていたハチジョウウツグミ、リュウキュウサンショウクイ、シベリアアオジが新たに種として追加された。

日本のキジも固有種と判明し、展示を企画した同センター職員の池田昇平さんは「国鳥のキジが本当の国鳥になった」と話した。

【長浜通信部・長谷川隆広】

鳥分類、姿形から遺伝子へ 湖北野鳥センターが特別展

新しい鳥の分類を紹介する特別展

湖東

彦根市在住の漫画家、吉本ユータヌキさんの新作が12月20日、発売された。捨て猫を主人公にした心の背中を押してくれる「まるねこププと」(扶桑社)で、A5判176頁、1540円。

主人公のププは出会った人を幸せにしたり、決断を後押ししたりする猫だ。各話のテーマは「なんのために生きてるんだろうと悩む若者」「頑張りすぎてしまうお母さん」「音楽が楽しめなくなっ

まったアーティスト」など。吉本さんは10年ほど前から自身の苦しみや葛藤をもとにした書籍を発行してきた。

「昨今の息苦しい社会の中で生きる人に、少しホッと肩の力を抜いてもらえるような時間を作っても「まるねこププと」の表紙は彦根商工会議所HPより

「えたらうれしい」とコメントしている。

【彦根通信部・伊藤信司】

心の背中押すネコ漫画 吉本さんの新作「まるねこププと」



ププに癒されてほかほかして、ちょっぴりせつなくなってもまたすぐほかほかして。読み終えたときには自然に心がととのってました。ベッドの近くにずっと置いておきたいマンガです。

最優秀に西村さんと清水さん 市が人権尊重の標語・ポスター募集

人権の大切さを広く伝えるために長浜市が募集した標語(小学生の部)とポスター(中学生の部)の入選作品が決まった。標語は西村橙子さん(長浜北小1年)、ポスターは清水葵さん(長浜西中2年)の作品が最優秀に選ばれた。人権に関する作品を作る

ことで、児童生徒に人権の大切さを学んでもらい、市民には作品を見ることで人権尊重の意識高揚を図る目的。標語は930点、ポスターは41点の応募があり、入選作は計48点。西村さんの標語は「いいえがお あのことここのこも おともだち」というリズムカルな作品で清水さんのポスターは地球の上に手のひらやハート、性別や障害者を示すマークなどを描き「みんな一緒」と文字で記した。

【長浜通信部・長谷川隆広】

アジサイ手まり咲き遺伝子 県立大・上町准教授ら特定

県立大の上町達也准教授と日本大、宇都宮大などの研究グループはアジサイが球状に花を咲かせる遺伝子を特定した。「アジサイの手まり咲き」と呼ばれることから「Femary」(テマリ) 遺伝子と名付けた。

アジサイの咲き方は「手まり咲き」「かく咲き」の2種類がある。日本の固有種、ガクアジサイは小さな花の周りに装飾花が縁取るように咲く。咲き方の中から「手まり咲き」が抽出され、園芸植物として発展した。日本では江戸時代に手まり咲



の咲き手まり咲きと咲きかく咲きのアジサイは県立大ホームページより

【彦根通信部・伊藤信司】